

平成23年度第1回千葉県防災会議幹事会

議事概要

1. 防災会議幹事会の概要

日時 平成23年12月26日 13:30～14:50

場所 千葉県庁中庁舎10階大会議室

出席者 千葉県防災会議幹事及び防災関係機関

2. 議事概要

以下の報告事項について、事務局から説明後、幹事等から意見をいただいた。

- (1) 東日本大震災による被害状況と対応
- (2) 東日本大震災に係るアンケート調査結果報告
- (3) 東日本大震災を踏まえた対応等の検討状況

幹事等からいただいた意見は次のとおり。

- 国でも多重防御の観点で何ができるか、どういう津波が来たらどうなるのかというシミュレーションを実施している。その結果でどの程度のものが必要ななど、レベル1、レベル2という2種類の津波を想定し、何ができるのかを検討している。

事務局：国との情報共有を行い千葉県地域防災計画の策定に生かしていきたい。津波の想定については、基本的に国の考え方に揃えたいと考えている。

国の方でも元禄地震という非常に大きな地震について想定すると聞いている。県としても今回の地震の再現を行うとともに今後は、住民の避難のトリガーとして、任意の津波設定、気象庁の警報の基準に合わせた津波の想定を行った場合にどの程度の浸水が内陸におよぶのかを検討し、年度末までに検討専門委員会の提言を受けた上でまとめたいと考えている。

- 支援物資が末端までなかなか届かないという場面があったが、末端までの供給をどのように考えているのか。時間が経つに従って非常に様々なニーズが出ている。特に女性や高齢者の方が逃げた時に、手持ちの薬などはあったが、それ以降の薬などが届かなかったということがあった。

事務局：被災した方への物資の提供は、非常に大きな課題だと思っている。即応の医療体制がカバーできる範囲を超えていること、高齢の方々への慢性疾患の医薬品等がなかなか届かないといったことや、避難が長期化することによるニーズの細分化などの課題は承知している。物流計画において、民間の物流事業者との連携も視野に入りたい。

- アンケートの中にもあるが、震災の時には、かなり電話が輻輳して繋がらなかったということがあった。NTTとしては、各避難所に繋がりやすい特殊公衆電話、いわゆる災害時優先電話を事前に配備し、災害時にそのまま避難所で使用していただくということを検討している。
- 発災後、最初は安否の確認であるとか親族等との連絡ということで電話のニーズが高かった。時間が経つにつれて情報収集としての面で、電話＋インターネット環境の要望がかなりある。今回の震災においても、電話＋インターネット環境を提供したが、今後の災害時には、各自治体と協力してインターネット環境を取り入れていきたいと考えている。

事務局：いろいろと連携させていただき、取り入れられる内容があれば、地域防災計画に反映していきたい。

- 津波については、もう少し放送のあり方を工夫していればこれほどの被害は出なかったのでは、という反省がある。アナウンスの仕方や表示について変えていこうと、出来ることから進めている。
- 情報の早い伝達手段として、テレビ以外のものにどのように情報を出していくか検討している。
- 避難勧告や大規模な地震だけではなくて、水害等についても、いかに情報を早く集めて共有しながら、必要なところに情報を届けることで工夫できればと思う。
- 3月12日から応急給水を始めたが、問題は渋滞であった。災害発生時にすぐに道路規制して、給水車を運ぶような道路の確保が出来れば、直ちに給水が出来たと思う。
- ガソリン供給の契約業者と災害時の優先的な供給について契約を締結しているが、それでも不足し業務に支障が出た。これについては、協定を超えて、政治的な面からのアプローチも必要なのではないかと考えている。

以上